

# 育世子屋NEWS

2020.1.1

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## どのご家庭も「我が子は国語が苦手!？」

「うちの子は国語が苦手です」「書く文章が意味不明です」「漢字が苦手です」・・・

小・中学生の親御さんと話していると、かなり高い割合でこのような話題が出ます。私も子供たちと接していて、今の子供達は国語が苦手な子が多いように感じます。

生徒同士の会話を聞いていても、私には意味が分からない??というような言葉のキャッチボールなのに、生徒同士はわかり合っているようなリアクションです。

ちなみに最近の子は嬉しい時も、悲しい時も、暑い時も、寒い時も、美味しい時も、不味い時も・・・どんなときも「ヤバイ」と表現します(笑)

今の子供達が、国語が苦手な理由は大きく分けて2つあると思います。

まず一つは 情報を得る機会がほとんど映像と音声中心になった という点です。

今はテレビ・パソコン・スマホ・タブレットなどで情報を得る時代になりました。それは便利な反面、映像と音声で楽に情報を得られるので「自ら文字を読んで、情報を取りに行く力」を伸ばしにくくなりました。

活字から情報を読み取るトレーニングをしていないので、計算はできるのに文章題になった瞬間、思考が停止し「意味が分からん」になるのです。

小学部の3年生以上が取り組んでいることばのワークというテキストに「読んで覚える」という問題があります。短い文章が書かれていて、それを読んで頭に思い浮かべて覚えておいて、次のページの設問に文章は見ずに答えるという問題なのですが、子供たちはみんな苦手なようです。**映像や音声で説明されたら分かるけど、文字からその情景やその場面を具体的にイメージする力が弱いのです。**

これからは、極力映像から情報を得る機会を減らす努力が必要なのではないでしょうか。

そして二つ目は「様々な年代の大人と会話する機会が減った」という点です。

国語の専門家である出口汪先生は「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番」と仰います。大人の会話を聞いていれば、意味の分からない言葉がたくさん出てきますが、前後から推測するなどしながら、話している内容を理解しようとします。（「子供の頭がグンと良くなる！国語の力」出口汪 水王舎より）

以前は親戚の集まりで、様々な年代の大人が集まり、ワイワイと話す機会が多くありました。今では実家に帰省することはあっても、以前のように親戚が集まるような機会はめっきり減ってしまったように感じます。もし親戚で集まったとしても、大人は大人でワイワイと話し、子供は子供で集まりゲームに興じているのではないのでしょうか？

このように、「**勉強と思わず、勉強できる環境**」が今は減っているのです。

## 国語力は「他者意識」がないと伸ばせない！

保護者欄

いつもお世話になりました。ありがとうございます。

今回のトライアルも楽しく拝見させていただきました。

「創作対話」は少し戸惑ってしまったのが、何度も書き直しをした様でした。昔は（私が小学生の時）お友達と遊ぶのにもお家の電話によくかけましたが、今はゲーム内でオンラインで直接やりとりをしたり、携帯を持ちはじめると親を仲介する必要がなくなっています。昔は自然と身についた「目上の人に対する言葉づかい」や「自分の伝えたい事の話方」など、対話をする事自体が減っている今、色々な所へ行き、たくさんの人と交流できる機会を親である私たちが積極的に作っていかないと、なかなか身につかないのかな...と思いました。

先述のように出口先生は「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番」と仰っていましたが、この感想文を書いて下さったお母さんの考え、まさに大正解なんです！！

ところで、コミュニケーションが大切なのは分かるけど、なぜ親子ではなく、様々な年代の人の会話を聞くことが一番なのでしょう。

それは、家族（家族以外でも気心の知れた相手）だと、短い単語や省略した表現でも意思が伝わってしまうからなのです。例えばご家庭でこんな会話は多くないですか？

「宿題した〜?」「まだ〜」 「早くお風呂入ってよ〜」「わかってる〜」

しかし、残念ながらこれは会話とは言えません。

授業中に生徒が、「先生、トイレ〜」

ある日、雨が降ってきた窓の外を見て生徒が、「先生、降ってきた〜!!」

どちらの例も、主語や述語が抜けているので文面だけでは意味が分かりません。実際にその場にいたら、何を言わんとしているのかは理解出来ますが。

このように、家族や気心の知れた相手だと正しくない文法（これで分かってくれるだろうという他者意識のない日本語）でもなんとなく伝わってしまうのです。しかし、そんな会話しか経験していない子がいざという時に正しい日本語が使えるかと言えば、難しいのではないのでしょうか。

だからこそ、「様々な年代の人の会話を聞いたり、コミュニケーションを取る」機会ができれば、ちゃんと話さないと伝わらないという他者意識を持った話し方を意識できるようになります。

**我が子は国語が苦手だわ・・・と感じられるご家庭では、国語の問題集や本を大量に用意して与えるよりも、日頃の家族間の会話を見直すこと、様々な年代の人と会話する機会を意識的に作る事が一番効果的ではないでしょうか。**

今のうちにそれをしておかないと、将来大人になったときヤバイですよ〜（笑）

では、来年も頑張ってください。来年もよろしくお願い致します。

# みなさんは「国語」得意ですか？

あなたは「国語が苦手」「文章を書くのが苦手」「問題文を読んでも意味がわからない」なんてこと、ありませんか？

## 国語力を上げるには「他者意識」が大事

あなたは日頃から「ヤバい」を口にしていませんか？最近では嬉しい時も、悲しい時も、暑いときも、寒いときも、どんな感情も「ヤバい」の一言で表現する人が多いですが、それで自分の思いが相手にしっかり伝わっているのでしょうか？

そのような感情語（ヤバいとかウザいなど）は、自分の思いを相手に適切に伝えることができません。そのような話し方をしていると国語力を上げることはできないので、国語がどんどん苦手になってしまいます。

国語力を上げるには、どんな年代の人にも伝わるように、日頃からちゃんとした話し方をする必要があります。そのような意識を「他者意識」といいます。その意識を持つことが国語力を上げることに繋がるのです。

国語が苦手な人は、問題集をこなすより、様々な年代の人の会話を聞いたり、コミュニケーションをとる機会を作ってみてください。そうすれば自然と国語力が向上しますよ。



偉人の名言

「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番。」

出口 汪 ～現代文のカリスマ予備校講師～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。